

2024
VOL. 107
February

2

Cheers!

なでしこチアーズ

救急搬送増加、医師不足
チーム力で医療崩壊を防ぐ

Cover&Interview — 副院長・外科部長 坪野 俊広



Contents

F M新潟出演

医療の広場 RADIO ～病院スペシャル～

開催レポート

ボランティア表彰を行いました

消化器病学会／化学療法公開セミナー

公認心理師高山先生より

人に話すことの大切さ

認定看護師から換気について

今月のレシピ ひじきと豆のポテトサラダ

登録医訪問 桶谷耳鼻科クリニック

職場訪問 A3病棟

救急搬送増加、医師不足—— チーム力で医療崩壊を防ぐ

外科部長として20年以上尽力されてきた坪野俊広医師。
副院長となり、若手医師の育成に奮闘する教育研修センター長、
医療安全管理室長、そして救急拠点推進室長など、
多くの肩書きで、当院の医療体制にご対応されています。
今号では、人望厚く懐の深い坪野医師が考える
救急医療体制の現状と課題に迫ります。

医師になって40年
医療現場の昔と今は違う

2023年4月から副院長に就任され、外科医として医療の最前線で活躍しながらも、一歩引いた視点でチームを統括する坪野医師。本誌には2016年9月号の『緩和ケア』特集以来、2回目のご登



Profile

1985 年 新潟大学医学部卒業
医師免許取得、医学博士号取得
1995 年 米国ピッツバーグ大学 留学
1999 年 済生会新潟病院 赴任
2000 年 済生会新潟病院 外科部長 就任
2023 年 済生会新潟病院 副院長 就任
その他、教育研修センター長・緩和ケアチーム・
医療安全管理室長・倫理審査委員会委員長・
ハラスメント対応チーム・救急拠点推進室長を兼任

認定資格

日本外科学会／認定医

所属学会

日本外科学会、日本消化器外科学会、
日本臨床外科学会、日本消化器病学会、
日本緩和医療学会

場となります。医師になるきっかけをつくったのは、学生時代のラグビー経験でした。

「医学部時代はラグビー部に所属し、ラグビー部員は外科に進むものだと思っていました」

坪野医師が医学生だった平成以前は、大学卒業後に2年以上の研修をする医師臨床研修制度はなかった時代。迷うことなく外科を志し、卒業後は県内外9つの病院を行ったり来たりする日々だったといえます。24歳で医師になってからちょうど40年。医療現場を取り巻く環境の変化を間近で見してきました。

「私が医師になりたての頃は、がん患者さんにはがんと告知しない時代でした。例えば、胃がんだったとしても『胃潰瘍です』と手術に臨んだり、抗がん剤の点滴を処方しても『栄養剤です』と伝えていた時代。そんな現場を目の当たりにして、何か変な所に迷い込んだなと思っていました。しかし、周りの人たちはみんな、そんなものだと思っていたようです。医師になって

5年目くらいから、患者さんに『あなたのがんです』と伝える医者が始始め、私も患者さんと正直な話ができる医者になりたいと強く思うようになりました」

教育研修センター長としても研修医を指導する坪野医師が若手医師に伝えたいことは、〈医療現場のスタッフはみんな対等であること〉。全ての職員が対等な立場で仕事ができれば、医療現場はもっと快適になる。定年退職を見据えて、坪野医師の後進への願いでもあります。

医療崩壊を防ぐために
今、できること

長きに渡り地域医療に貢献してきた坪野医師が今後の医療の課題として挙げたのは〈救急医療体制〉について。前号の特集でお伝えしたように、当院は昨年5月に新潟市救急医療拠点病院に指定されたばかり。年間8千台以上の救急車を受け入れられる救急拠点病院になる目標まで、残り4年となります。しかし、それはあまりにも高い

目標であるのも事実。しかし、病院の機能分化と集約化は待ったなしです。スタッフ一人一人の意識向上とチーム力の最大化のために救急拠点推進室長としての期待が高まります。

「日本では特に救急医療が切迫していますが、その要因は少子高齢化にあります。日本の人口は減少しますが、高齢者層はまだ増加。これから10年、15年先は高齢者の救急搬送が増加するにも関わらず、対応できる医師の数が圧倒的に少ない。特に、当県は医師の高齢化も深刻化の一途をたどっています。さらに、国による医師の働き方改革もこの4月から開始されます。できる限りを尽くして問題に立ち向かつてはいこうと思っていますが、医療崩壊が止められるかは分からないのが正直なところですよ」

副院長として当院の経営にも携わる坪野医師は「全国の病院の7割が赤字経営」という現実にも着目しています。「地域医療を支える病院が潰れるわけがない」という希望的観測を抱きつつも、県内外で廃院となった医療施設を報道で

見聞きし、対岸の火事ではないと感じるようになったと言います。

「例えば、連日、一日につき患者さんの入院が3人増えると、当院の収支も黒字化できるという試算が出ています。しかし、それは年間で千人の受け入れを増やすということ。改めてその難しさのため息が出ることもあります。急性期病院として、新潟市の医療再編の先頭に立つていかなければならない重圧とともに、医療が激しく変わっていく時代に参画できるうれしさも感じています」

スタッフの意識を変える 〈心理的安全性〉の強化

医師不足、患者さんの高齢化、救急搬送の増加、そして働き方改革。「昔は24時間365日と言っても過言ではないほど、勤務医として病院で働いていた時代だったけれど、これからはそうはいかない」と坪野医師が言うように、日本の医療制度はとてつもない勢いで変化しています。立ち足る大きな壁に「本当に太刀打ちできるのか？」という不安を抱える医療スタッフも

Q2. 最近気になっていることはありますか？

2016年の本誌掲載のインタビュー時と同様に、おいしい店探しは相変わらずです。新潟駅からほど近い隠れ家的フレンチの「Restaurant ISO」さんや、古町東堀にある鮮度や部位にこだわる鶏専門店「my farm to table おにや」さんに行ってみたいです（まだ行けてはいないのですが…）。



Q3. 趣味や特技は？

「ウォーキング」と言いたいところだけど、実際にできているのは休みの日くらい。週末になるとたまに妻と一緒に、いろんなところを歩いています。



Q5. チャレンジしたいことは？

医師としての定年後も今と変わらず、おじいさんやおばあさんたちと仲良くやりながら緩和ケアに携わっていききたいですね。



チーム力向上に必要不可欠な 心理的安全性とは

米国のハーバードビジネススクールのエイミー・C・エドモンドソン教授によって提唱された概念。チームの中で遠慮なく話しても、それを理由に非難されることがない状態を示します。効果的なチームを作るには何が大切かを検証したGoogleのプロジェクトによって一躍有名になり、最も重要な条件として世界中で知られるようになりました。

〈心理的安全性を高めるために重要な4因子〉

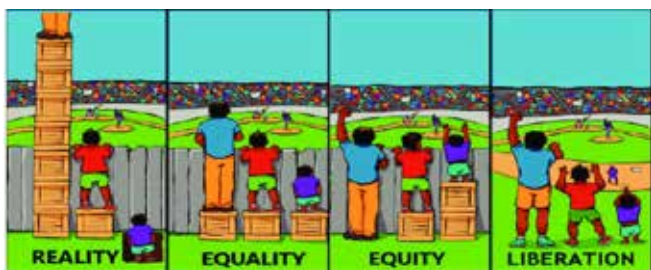
率直に話し合える

責めずに助け合う

前例がなくても挑戦する

個人や個性を歓迎する

組織にとって最も大切なこと 心理的安全性



現実

平等

公平

解放

心理的安全性

「私はこの病院でフラットな組織を作りたい。それは、自由なゆるい組織ではなく、みんなで忌憚なく意見を出し合い、議論し、失敗を恐れずに実行してみるへ心理的安全性の高いチームを作っていくたいのです。意見を出したら『よくぞ言ってくれました。あなたの働きに期待しているんですよ』と常に思っています。年齢も性別も、役職も超えたチームングこそ、医療崩壊を防ぐ基盤になると確信しています。患者さんのために医療従事者になったわけなので、最後まで頑張っていきたいと思っています」

(聞き手 松永春香)

坪野 俊広 医師の素顔拝見

Seeking the real portrait

文武両道の学生時代を歩まれた坪野医師。相変わらず食への好奇心もキープされ、忙しい日々の中でも、ご自身の好きなもの、気になることを楽しまれていました。

Q1. 学生時代の思い出は？

高校、大学の10年間はラグビーに明け暮れました。当時は大学ラグビーが一大ブーム。「男ならラグビーでしょ」と180cmの高身長で意気揚々とプレイしていました。



貧血予防に



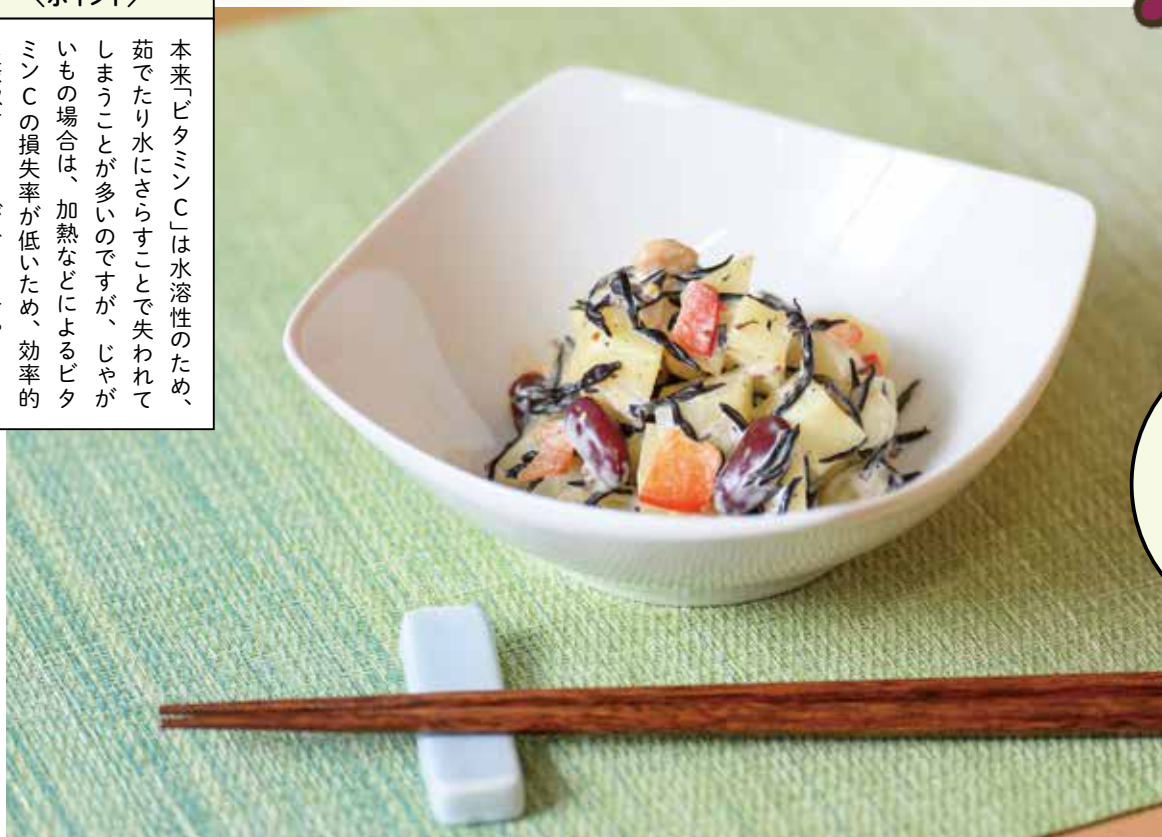
貧血の予防には **ヘモグロビン** と呼ばれる血液成分の材料となる鉄を摂取することが大切です。鉄はビタミンCと一緒に摂ることで吸収率がUPし、ヘモグロビンの生成を助けてくれます。今回のレシピでは、調理時のビタミンC損失率が少ないじゃがいもに鉄の多いひじきと豆を加え、彩りも鮮やかなポテトサラダをご紹介します。

● 1人分の栄養価

エネルギー	199kcal
たんぱく質	6.1g
脂 質	8.6g
炭水化物	25.8g
食 塩	0.9g
鉄	1.5mg
ビタミンC	26mg

このレシピの ポイント／

本来「ビタミンC」は水溶性のため、茹でたり水にさらすことで失われてしまうことが多いのですが、じゃがいもの場合は、加熱などによるビタミンCの損失率が低いため、効率的に摂取することができます。



＼1日当たりの/
食事推奨摂取の目安

----- 鉄 -----

男性:7.5mg

女性:6.5mg

----- ビタミンC -----
100mg

ひじきと豆の ポテトサラダ

「クックパッド」に公開しているレシピをキッチンでどうぞ



【材料(2人分)】

じゃがいも(皮を向いて一口大に)..... 2個
ひじき(水で戻しておく)..... 5g
ミックスビーンズ..... 60g
パプリカ(小さく角切りに)..... 5g
★酒／みりん／醤油..... 各小さじ1
マヨネーズ..... 小さじ2〜3
粒マスタード..... 小さじ1

【作り方】

- ① じゃがいもを耐熱容器に入れ、レンジで5〜8分加熱する
- ② ひじきを小さじ1の油で炒め、全体に油が回ったら★を加えて、汁気がなくなるまで煮炒める
- ③ 粗熱が取れたら、じゃがいもとミックスビーンズ、パプリカを加え混ぜ合わせる
- ④ あらかじめ混ぜておいたマヨネーズと粒マスタードを、最後に混ぜて出来上がり



Question and Answer

ご質問にお答えいたします

「車椅子マーク」の正しい意味と正式名称

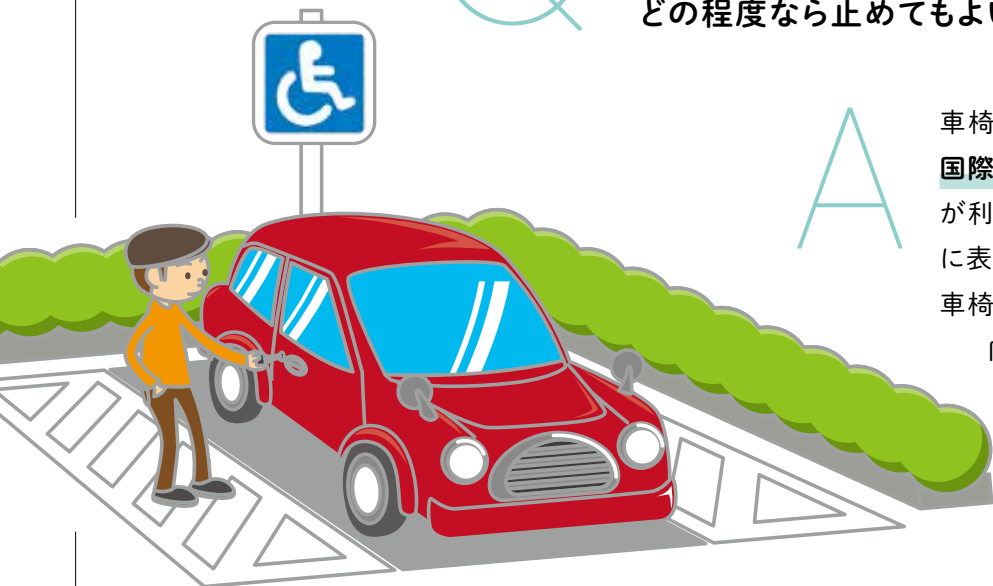


「車椅子マーク」のある駐車スペースに止めた車から降りてきた人が普通に歩いて病院内に入って行きました。どの程度なら止めてもよいものでしょうか？



車椅子マークの正式名称は **障がい者のための国際シンボルマーク** といい、障がいをお持ちの方が利用できる、建築物や駐車場であることを明確に表すための世界共通のシンボルマークです。

車椅子を利用する方に限定している訳ではなく、内部障がいも含め、全ての障がいをお持ちの方が対象となりますことを、ご理解いただきたいと存じます。



Report

ボランティア表彰を行いました



当院ではインフォメーション(正面玄関での案内や受診援助)とリーディング(小児科病棟で絵本や紙芝居の読み聞かせ)のボランティア活動を行なっています。現在は新型コロナウイルス感染症防止対策のため、2020年4月より活動を休止しています。

昨年3月末で退会された富井知世子さん、解良洋子さん、倉井清子さん、一関美知子さん、白井栄子さん、青山恵子さんへ感謝の意を込めて感謝状を贈呈いたしました。これまでご活動いただきありがとうございました。

(医療福祉相談室 MSW 瀬高 香菜)



FM新潟に出演(全3回) 

ON AIR

医療の広場 RADIO ～病院スペシャル～



当院が番組収録に全面協力したFM新潟「医療の広場 RADIO ～病院スペシャル～」の初回が1月21日(日)に放送されました。新潟市出身のパーソナリティ酒井春奈さんの進行のもと、『病院のいま』を伝えるラジオ番組です。

最初に登場したのは当院院長の本間照医師。今も外来診療の現場に立ち、患者さんとの関わりを大切にしています。もうすぐ100年を迎える当院の成り立ちや新潟市の医療についてお話ししました。リクエスト曲は ジャッキー・バイアード演奏の「セ・シ・ボン」。ジャズが大好きで気持ちを落ち着かせたいときに聴くそうです。

お次の登場は救急科部長の小林厚志医師。昨年4月の着任以来、救急搬送された患者さんの診療に当たっています。新潟市の救急や、救急現場について話しました。ご自身が高校・大学とラグビー部だったこと

からラグビー日本代表応援ソング B'zの「兵、走る」をリクエスト。

3番目の登場は約450名いる大所帯の看護部を取りまとめている佐藤志津子看護部長。看護師の立場から見た救急の現場、済生会の使命への取り組みについて話しました。リクエスト曲は大好きなカラオケで歌う 今井美樹の「PRIDE」。

院内に設けられたスタジオでの公開収録は、和やかな雰囲気のもと、あっという間に時間が過ぎました。患者さんや地域の皆さんに、当院のことや地域医療のことをお伝えする大変貴重な機会となりました。

テーマや出演者を入れ替えて、第2回の放送は3月17日(日)、第3回は5月19日(日)のいずれも19:00～19:55の予定です。

日曜日の夜に、ぜひお聴き逃しなく!

Report

消化器病学会のご報告



昨年11月25日(土)、26日(日)朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターに於いて、第73回 日本消化器病学会甲信越支部例会、第95回 日本消化器内視鏡学会甲信越支部例会合同支部例会、ならびに第25回 日本消化器病学会甲信越支部専門医セミナー、第50回 日本消化器病学会甲信越支部教育講演会を開催しました。

山梨・長野・新潟県の消化器診療に関わる250名超の医師が集まり、現在の診療・研究・教育など様々な課題について発表し議論しました。日々進化する新たな診断・治療法について学び、来たるべき超高齢化社会を見据えての治療戦略を語り合い、更には働き方・キャリア支援など



についても議論することができました。この会で得られたことを糧に、また一歩先を目指して日々精進していきたいと思えます。

今回の開催に当たり、日本消化器病学会甲信越支部長の信州大学医学部内科学第二教室 梅村武司教授、日本消化器内視鏡学会甲信越支部長のがんセンター新潟病院副院長 小林正明先生はじめ、多くの先生方にご指導いただきました。またプログラム設計から実務まで多岐にわたり実働していただいた当院消化器内科の横山純二部長、総務課 吉川末織さんにこの場を借りて深謝したいと思います。ありがとうございました。(院長 本間 照)

Column

公認心理師 高山先生より

人に話すことの大切さ

「人に話すことで心が落ち着いた」という体験について、みなさんありますか。今回は「話す」について書いてみたいと思います。

「話す」には「離す」「放す」という機能があります。言葉にして話すことで、自分の悩みや迷いを身体から離すことができます。身体から離すことで体験を俯瞰して見ることができ、心を落ち着かせることにつながります。

心理面接の「話す」、にもこのような機能があります。患者さんの抱えている悩みには様々な葛藤や迷いがあります。話すことで「あのとき自分はこう思っていたんだ」と改めて気づかれる方もいらっしゃいます。一方、患者さんの語りを聴いている聞き手は「どうなるんだろう」とハラハラすることもあれば、「それはよかった」とほっとすることもあります。患者さんの語りに心を動かしたり、患者さんをさらに知りたいと思い、より深く話を聞いていく、こういった他者とのやり取りがあるからこそ、「話す」を通して身体から様々な感情が離れていくのかもしれない。

私は「話す」を通して、患者さんがつらい時も、楽しい時もそばにいてさしていただいているという姿勢を忘れずに、これから患者さんの「話す」言葉に耳を傾けて、聴いていきたいと思っています。みなさんにとって「話す」ことはどんな体験でしょうか。

Report

化学療法
公開セミナーを
開催しました

昨年11月24日(金)化学療法委員会主催の公開セミナーを開催いたしました。「がん診療でおさえておくべき腫瘍循環器学～ Onco-Cardiology 診療ガイドラインより～」というテーマに、大阪国際がんセンター成人病ドック科主任部長の向井幹夫先生にご講演いただきました。今年度は当院に先生をお招きしてご講演いただき、一方未だ新型コロナ感染禍であることも考慮しハイブリッド形式で開催いたしました。

腫瘍循環器学とは、がんと循環器の両者が重なった領域を扱うという新しい臨床研究分野で、昨年3月に日本で初めての Onco-Cardiology 診療ガイドラインが作成されました。本講演では、ガイドライン作成に関わった向井先生より、最新のエビデンスに基づく推奨が提示され

たCQ (clinical question)も含め、がん患者さんにとって最適と考えられる治療について、わかりやすくご講演いただきました。がん専門医と循環器専門医との連携、さらにがん専門の看護師や薬剤師など、多職種連携しながら、患者さんの意思を尊重したがん診療を行う重要性について学ぶことができました。

この講演会で学んだことを医療チームで活かし、より安全で安心な化学療法を患者さんに提供できるように、努めていきたいと思います。化学療法委員会では毎年、院内外の医療従事者の皆さんを対象に、公開セミナーを開催しております。今年も開催予定ですので、ぜひご参加ください。

(事務局 治田 麻理子)



山口 朝美さん
人工透析室・看護師

次号は

A 3病棟・看護師

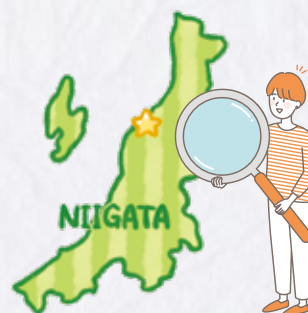
吉田 ひとみさんにバトンタッチ

同じ時期に新潟県にきた仲間です。A 3病棟という様々な疾患が混在する大変な部署ではありますが、淡々と業務をこなす姿が素敵だなと感じています。たまに院内で会えると彼女の笑顔にほっとします。今年は同期で集まってご飯に行きましょう！

新潟県民になり、もうすぐ1年が経とうとしています。転職、子どもの入学や転園、義理の両親とのコミュニケーション、本格的な車の運転など、慣れない生活に不安でいっぱいでした。

配属先も、今まで経験したことのない部署へ配属となり、新しい業務を覚えるのが大変でした。まだまだ勉強が必要な事や、覚えなくてはならないことが沢山ありますが、先輩方のご指導のもと、2024年は、今以上に自立していけるよう努力していきたいと思っています。

プライベートでは休みを利用し、一人時間を楽しんでいます。新潟市について知らないことが沢山あるため、少しずつ探索しながら、自分の楽しみを見つけていきたいと思っています。おすすめスポットがあればぜひ教えてください！



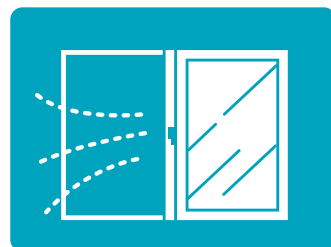
感染管理認定看護師から 換気について

新型コロナウイルス感染症の流行によって、感染対策としての「換気」が注目されました。換気のコツは「風の入口と出口」をつくることです。

空間を除菌する、というような商品がいろいろとあります。しかし空間を除菌するためには、その空間の消毒薬の濃度を高める必要があります。屋内の感染対策では「換気」が大切です。空間の中に消毒薬があったとしても換気をする、とどんどん濃度が下がってしまい、換気をしながら空間を除菌するということは、そもそも無理な話なのです。

もしも換気をしない密閉空間で、除菌できるほどの十分な濃度の消毒薬があれば、それを吸い込んで体調を崩すという吸入毒性が問題となります。このように、一般的に空間除菌というのは積極的におすすめされていない、というのが現状です。

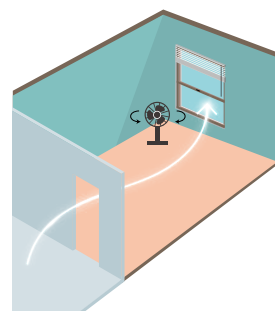
(感染管理認定看護師 真柄 陽子)



効率よく換気をするポイント

① 1カ所より2カ所の窓を開けましょう！

窓が1カ所しか開けられない場合は、室内ドアを開けたり、扇風機を活用して空気の流れをつくりましょう。



② 二方向の窓を開けましょう！

③ 部屋の対角線で通風を意識すると、さらに効果的に換気ができます！



当院は1951年に「耳鼻咽喉科桶谷医院」として開業しました。3代目院長の本間悠介です。平成31年4月1日より「桶谷耳鼻科クリニック」に名称を改め、院内外ともにリニューアルしております。診療は耳鼻咽喉科一般診療を中心として行っており、めまいや難聴といった耳疾患、扁桃炎等の咽喉頭疾患、アレルギー性鼻炎などの鼻

Medical Partners

医療連携の頼れるパートナー

登録医訪問

桶谷耳鼻科クリニック

耳鼻咽喉科

中央区

疾患などお困りの際はぜひご相談ください。また耳鼻咽喉科の特性上、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザといった方も来院されるため、患者さんが安心して受診していただけるようにリニューアルの際に隔離室を設け、院内では感染症以外の他の患者さんと接触しないような造りにしております。またこの地域柄、高齢の方が多いことから車いすの方でも入れるようにバリアフリーにしております。

診察の際にはできるだけ患者さんが話しやすい環境をつくりながら地域医療に貢献できるようスタッフ一同心がけております。医療を提供するにあたり、その個性を生かすことで、患者さんの負担が少しでも減るような診療ができたと思っています。



医師名 本間 悠介(ほんま ゆうすけ)先生

住 所 〒951-8063 新潟市中央区古町通 10番町1711-3

電 話 025-222-7826



診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
9:00～12:00	●	●	●	●	●	●	—
15:00～18:00	●	●	●	—	●	—	—

※駐車場は医院脇に9台、医院正面に2台あり(うち1台車いす用)



連携医療機関(登録医・病院)からのご紹介・ご予約について

当院の地域医療連携室までご連絡ください。

TEL.025-233-6182〈直通〉 FAX.025-231-5763

※平日8:30～17:00(土・日・祝日を除きます)

※患者さんからの予約はお取りしておりませんのでご了承ください。

私たちの病棟は、重症患者さんや手術後の患者さんの受け入れ、救命のための治療を行う集中治療室を併設する循環器科・心臓血管外科・救急科・呼吸器内科の病棟です。

各科優れた医師のほか、クリティカル認定看護師を含む、優しい看護師と看護補助者、薬剤師、臨床工学士、心臓リハビリスタッフなど、専門知識を有した様々な職員で患者さんのケアに努めています。

患者さんが急変した時に発揮されるチームワークは目を見張るものがあり、命を救うべく一丸となつて取り組みます。重症患者さんの中には、意識がない方もいらっしゃいます。様々なデータや表情な

Workplace visit

院内で頑張るスタッフがずらり

職場訪問

A3病棟



だから変化を見逃さず、患者さんの苦痛や不安を取り除き、可能な範囲で早期にリハビリを実施しながら、患者さんが地域に戻るよう、一人一人に寄り添った看護の提供に努めています。

これからも済生会に入院して良かったと思っていただけるように努力してまいります。

(A3師長 阿部弘子)





こころ 躍る
毎日を。



ただ今「新型コロナウイルス感染拡大防止」のため、チラシ・イベント等の予定を変更させていただくがございます。
詳しくは店内ポスター・ホームページ等でご確認ください。

毎週火曜日は火曜特売!!

UCSカード・
majica会員さま



毎月9日 19日 29日
5%OFF

UCSカード・majicaで全額お支払いください

※一部商品を除きます。※専門店は各店にてご確認ください。
※一部店舗では実施しておりません。

毎月15・16日 60歳以上の方限定!!

レジにて/
ハッピー
パスポートの
ご提示で

10%OFF



衣料品
(インナー・靴・服飾雑貨含む)

キッチン・リビング用品
(日用消耗品は除外)

寝具
インテリア用品

医薬品
(調剤は除外)

介護用品
(介護オムツは除外)

文具・玩具・ファンシー
(TVゲーム関連は除外)

●60歳以上で、パスポートにご署名されたご本人のみご利用いただけます。
●1枚で毎月ハッピーデー当日のみ、アピタでご利用いただけます。
●対象商品の取り扱いのあるアピタ店舗にてご利用いただけます。一部除外商品がございます。
●修理・加工代・指代は対象外です。
●他の割引・円引き企画をご利用いただく場合、割引率の高い方での割引となります。

発行手数料
無料

年齢確認できるもの(免許証等)をご提示ください。

アピタ新潟西店 新潟市西区小新5丁目7番21号 お客様専用ナビダイヤル ☎0570-009608

予防医療センターのご案内

「治療」から「予防」へ 予防医療の実現を目指します

健診
内容

- 人間ドック
- 脳ドック
- 肺ドック
- 生活習慣病予防健診
- 特定健康診査
- 新潟市がん検診
- 個人健診
- 各種単独検査 等

詳しい内容についてはこちらの
QRコードからホームページでご確認ください



B棟2階 予防医療センター

☎025-233-6669 (直通)

予防医療センター受付時間 平日9:30 ~ 11:00
お電話でのお問い合わせ時間 平日9:00 ~ 16:30

地域医療支援病院 臨床研修病院 災害拠点病院 赤ちゃんにやさしい病院



社会福祉法人 恩賜財団 済生会 済生会新潟病院

〒950-1104 新潟県新潟市西区寺地 280-7

TEL.025-233-6161(代) FAX.025-233-8880

こちらも
注目



済生会新潟病院の
Facebook 好評稼働中!

なでしこチアーズ
Cheers!

当院 HP よりバックナンバーもご覧いただけます。

医療連携機関マップ
<http://saiseikaidaini-renkei.jp>



病院ホームページ
<http://www.ngt.saiseikai.or.jp>



Dr. さいせい

